

連載

日本の観光洞 —40

水島 明夫

福岡県 —2 Fukuoka-ken 2

“平尾台”の、残りの2つの観光洞を紹介する。

54. 牡鹿洞 Ojika-dou

竪・斜・横複合洞・全長 403 m (-48 m)

<特 色>

日本で唯一の、洞口から竪穴の観光鍾乳洞。-25 mの洞口を階段で降りるのはスリルたっぷり。あの小さな空を、是非体験してください。そして続く斜洞と洞内の水流。秋吉台にしても平尾台にしてもカルスト台地の地表に“水”はない。そう、まず、こんな竪穴を通して“水”が鉛直方向に移動してしまうからだ。カルスト台地平尾台の内部がたっぷり見られる。

<所在地>

北九州市小倉南区平尾台 2-6-58 TEL 093-451-0165

<交通>

JR 鹿児島本線小倉駅より日田彦山線石原町駅へ。そこからカルストタクシーで約 15 分、平尾台自然観察センター下車。センターで、あたりを見回すと“牡鹿洞”の看板が見える。南東に徒歩 5 分のところ。

やはり自家用車が便利、九州自動車道小倉南インターから、南へ約 20 分。なお、平尾台上への山道は、運転好きにはたまらない、初心者には恐怖のくねくね道です。牡鹿洞の駐車場までダイレクトに行けます。

<管理者>

牡鹿洞 TEL 093-451-0165

<概要>

平尾台自然観察センターから南に歩くと、すり鉢状の深いドリーネがいくつか並んでいて“川ドリーネ”と呼ばれている。その一番手前（北）のドリーネに牡鹿洞はある。チケット売り場から階段でドリーネの斜面を降りる。そのドリーネの底に牡鹿洞がポカッと口を開けている。

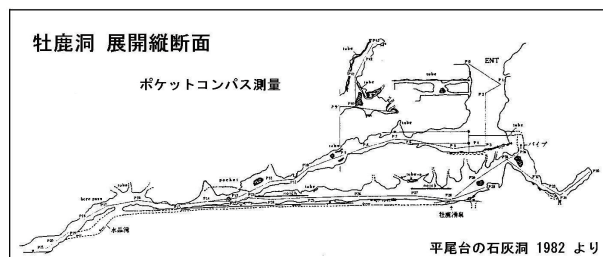
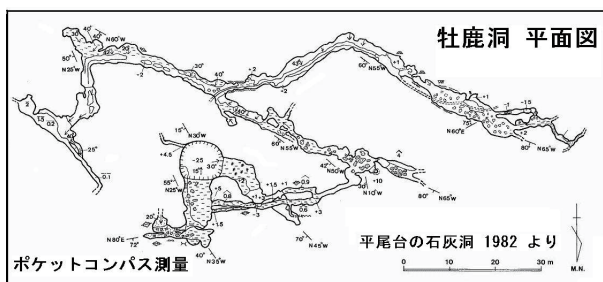
洞口は -25 m の正真正銘の竪穴だ。鉄製の階段を降りるほど、洞口の空がだんだん小さくなる。日本では観光洞内に竪穴のある洞窟はいくつかあるが（群馬県の不二洞、京都府の質志洞など）、洞口から“竪”という、この雰囲気味わえるのはこの牡鹿洞だけだ。



降りた洞口ホールは北側は「獣骨殿」と呼ばれ、カワウソやナウマン象、大量のサルの化石がでた支洞だ。本洞は西側に続いている。「通天門」と呼ばれる天井の高い所（落葉で外とつながっています）から南東に向きを変え、斜洞でどんどん降りていく。洞床にはとても立派なトラバーチンがあり、過去も凄かったよう。

やがて、「丁字河原」にでて、東西に伸びる水流をつた横穴とつながる。西側が上流で約 100 m ほどの長さがある。ノッチ、水平天井が見事で、観光化されてはいないが奥には水流の水源になる 15 m 以上の深さのプールがある。

「丁字河原」から東は水流に沿って斜洞になっており、「水晶滝」と呼ばれる傾斜のきついところもある。そして牡鹿洞の最深部 (-48 m) に水流が消え、終点になる。



<探検の歴史>

無名穴として存在は知られていたが、実際に探検が行われたのは 1962 年で、日本ケイビング協会が多数のサル、カワウソ、ナウマン象の骨を発見している。水の少ないカルスト台地にカワウソというのも不思議。

<周辺の宿泊施設、見所>

日本でも秋吉台と並ぶ典型的なカルスト台地“平尾台”。ゆっくりと歩き回って、カルストの景色を味わって下さい。なお、平尾台自然観察センターも見応えがある、是非“平尾台”を歩き回る前にセンターを見ることを勧めます。

55. 目白洞 Mejiro-dou

横穴・全長 2,100 m +

<特 色>

“牡鹿洞”がカルスト台地の“水”の入口なら“千仏洞”はカルスト台地の“水”の出口。“目白洞”はその中間のカルスト台地の内部を流れる“水”をリアルに見ることができる穴だ。平尾台では珍しく、二次生成物の発達が素晴らしい洞窟。平尾台を代表する洞窟でもある“目白洞”の一部が観光化されたもの。

洞窟の周りも平尾台を代表する“羊群原”といわれ